

ARISHIMA TAKEO

有島記念館 Vol.11 MEMORIAL MUSEUM

有島武郎研究会 創立二十五周年記念大会 が開催されました

平成二十三年六月四日と五日の両日、有島記念館を会場として「有島武郎研究会創立二十五周年記念大会」（主催・有島武郎研究会 協賛・ニセコ町、ニセコ町教育委員会 後援・土の香の会）が開催されました。北海道内各地はもとより全国から有島文学の研究者や文学ファンなど約八十名の参加者がありました。

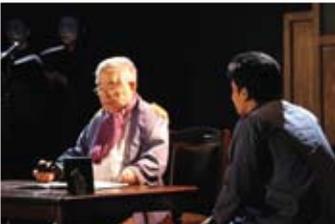
第一日目は、有島武郎の命日が近いこと（六月九日）から、有島を偲ぶ「星座忌」を催しました。例年は屋外で開催するものの、当日は生憎の雨のため、有島アートホール内での実施でした。しかしながら、今までにない多くの方々にご参列いただき中、顕花などを行い、有島を偲びました。

その後、大会プログラムに入り、有島原作の戯曲「老船長の幻覚」を、北翔大学（江別市）の学生・教員などがスタッフ・



有島を偲び顕花を行う参加者

キャストの中心となり、上演しました。この上演は、「リーディング形式」という演劇手法で、老船長の心の中の声を表現する試みを行っています。従来にはない試みの公演を前にして、参加者は真剣に舞台に見入っていたのが印象的でした。



▶演劇「老船長の幻覚」



▶江種満子氏

演劇終演後、江種満子氏が「『或る女』という女性たちから、その娘・孫娘たち」という題目で記念講演を行いました。ここでは氏の研究成果を元に、有島をとりまく女性を中心とした人間関係などが紹介されました。

一日目の大会プログラム終了後には、懇親会が催され、ニセコ町の食材を使った手料理に舌鼓を打ちながら、有島研究者が活発に意見を交換し、盛り上がりを見せました。

二日目は、シンポジウム「現代に生きる有島武郎」を開催。三名の研究者が、

自らの有島研究の成果を発表しました。



▶江種氏の講演に聴き入る参加者



シンポジウム《現代に生きる有島武郎》会場

有島武郎研究会創立二十五周年の節目となる大会が、有島武郎を顕彰する当館で開催されたことは大変喜ばしいことです。今後は、当館が有島研究の活性化にどのような貢献ができるのかについて、研究者と相互に模索していきたいと考えています。

大会スケジュール

◆平成二十三年

●六月四日（土）

▼星座忌献花式

▼（有島記念館アートホール）

▼主催／土の香の会

▼共催／有島記念館

▼記念演劇公演

▼「老船長の幻覚」

▼（有島アートギャラリー）

●六月五日（日）

▼シンポジウム

《現代に生きる有島武郎》

「『有島武郎』が現代に問いかけるもの」佐々木さよ

「有島武郎「カインの末裔」に生きる「古典」と「現代」」片山晴夫

「他メディア化する有島武郎作品」上牧瀬香

▼懇親会

▼（有島記念館アートホール）



有島武郎研究会会員の皆さん

目次

1

有島武郎研究会
創立25周年
記念大会開催

2

活動報告

3

収蔵資料紹介
資料受入報告
学芸活動報告

4

書籍紹介
事務室だより
職員動向

平成二十二年 活動報告

一、展示事業

(一) 常設展示室
来場者数
四千九百四十四人

(平成二十二年四月一日～平成二十二年十二月三十一日)
九十七人

(二) 企画展「回想 映画『華の乱』」
「二七〇の映画口ケをふり返る」

期間 平成二十二年八月十七日～十月十一日

場所 有島記念館アートギャラリー

(三) 西村勝廣展(共催事業)

期間 平成二十二年八月十五日～十月十一日

場所 有島記念館アートギャラリー

(四) 第二十二回

有島武郎青少年公募絵画展

期間 平成二十二年十月三十日～十一月十四日

場所 有島記念館アートギャラリー

応募点数 二百六十九点

入賞・入選点数 百十九点

有島武郎賞「収穫Ⅱ」

北海道倶知安高 會澤美咲

二、普及事業

(一) 星座忌(共催事業)

日時 平成二十二年六月十二日

場所 有島記念公園

参加者 十八人

(二) 春の音楽彩

日時 平成二十二年六月二十一日

場所 有島記念館アートホール

出演 二セコトライアングルほか
参加者 七十人

(三) 有島記念館常設展示リニューアル
オープンセレモニー

日時 平成二十二年七月十八日

場所 有島記念館常設展示室

参加者 三十七人

(四) 有島記念館常設展示リニューアル
オープニング記念講演「有島武郎

の世界一言葉の命を生きた芸術家」

日時 平成二十二年七月十八日

場所 有島記念館講堂

講師 中村三春(北大大学院教授)

参加者 三十七人

(五) 有島記念館クラシックコンサート
(共催事業)

日時 平成二十二年八月九日

場所 有島記念館アートホール

出演 福本牧ほか

参加者 四十五人

(六) 第二十二回

有島武郎青少年公募絵画展表彰式

日時 平成二十二年十一月六日

場所 有島記念館アートギャラリー

参加者 百二十一名

(七) 有島記念館クラップコンサート

日時 平成二十二年十一月二十日

場所 有島記念館アートホール

出演 二セコトライアングルほか

参加者 七十二人

(八) 第十一回有島宮山登山会

日時 平成二十二年三月十九日

場所 有島記念館及び宮山周辺

参加者 八人

平成二十三年 活動報告

一、展示事業

(一) 常設展示室
来場者数
七千六百三十六人

(平成二十三年四月一日～十二月三十一日)
(二) 常設展示室内小展示
「有島武郎の著作」

期間 平成二十三年六月四日～九月三十日

場所 有島記念館常設展示室二階

(三) 「懐かしの狩太展」(展示協力)

日時 平成二十三年十月二日

場所 二七〇駅前農協倉庫内

(四) 第二十三回

有島武郎青少年公募絵画展

期間 平成二十三年十月二十九日～十一月十三日

場所 有島記念館アートギャラリー

応募点数 二百六十点

入賞・入選点数 百十六点

有島武郎賞「翠の創造」

北海道札幌東陵高 桑田真望

二、普及事業

(一) 星座忌(共催事業)

日時 平成二十三年六月四日

場所 有島記念館アートホール

参加者 七十四人

(二) 有島武郎研究会創立25周年記念大会(協賛事業)

期間 平成二十三年六月四日～六月五日

場所 有島記念館アートギャラリー

参加者 六十三人

(三) 春の音楽彩

日時 平成二十三年六月十一日

場所 有島記念館アートホール

場所 有島記念館アートホール
出演 二セコトライアングルほか
参加者 八十六人

(四) 夏のコンサート(共催事業)

日時 平成二十三年七月三十日

場所 有島記念館講堂

出演 Ensemble Verde
参加者 四十七人

(五) しりべし夏季音楽祭2011
(共催事業)

日時 平成二十三年八月十三日

場所 有島記念館アートホール

出演 小原圭、福本牧ほか

参加者 三十二人

(六) 「平成二十三年第二回地下熱利用とヒートポンプシステム研究会
兼見学会」(協賛事業)

日時 平成二十三年八月二十九日

場所 有島記念館アートギャラリー

参加者 六十八名

(七) 有島記念館クラップコンサート

日時 平成二十三年九月十日

場所 有島記念館アートホール

出演 二セコトライアングルほか

参加者 四十六人

(八) しりべし秋季音楽祭(共催事業)

日時 平成二十三年九月二十三日

場所 有島記念館アートホール

出演 小原圭、福本牧ほか

参加者 三十一人

(九) 第二十三回

有島武郎青少年公募絵画展表彰式

日時 平成二十三年十一月五日

場所 有島記念館アートギャラリー

参加者 百七十九人

(十) 第十二回有島宮山登山会

日時 平成二十三年三月十七日

場所 有島記念館及び宮山周辺

参加者 十七人

収蔵資料紹介

吉田初三郎作

「狩太町道立公園二セコ観光鳥瞰図」

原画

平成二十三年度、吉田初三郎作「狩太町道立公園二セコ観光鳥瞰図」の原画を収蔵しました。

鳥瞰図とは、はるか上空から地上を見下ろした情景を描いた図であり、名前の通り、あたかも空高く飛ぶ鳥の目にうつる眺めを図化したものといえます。

初代・吉田初三郎は、明治十七（一八八四）年に京都で生まれ、昭和三十（一九五五）年に没するまで、日本全国の自治体などからの要請により、多くの鳥瞰図を手がけました。また、近年、再評価が高まっている作家でもあります。

吉田の鳥瞰図が、他の鳥瞰図作家のそれと明確に異なる特徴は、実際には見えない風景を鳥瞰図の中に描くという点です。本原画においても、狩太町（現・二セコ町）を中心にしながら、札幌や煙をなびかせる十勝岳までが遠方に描かれていることから、この特徴が見て取れます。なお、初代・初三郎没後、二代目・初三郎（一九〇九―二〇〇〇）が多くの鳥瞰図を作成しています。本原画が初代二代目どちらの作かは現在のところ定かではありません。

本原画をみると、「有島解放記念碑」や温泉地といった地域の名所・観光施設など、当時の狩太町の様子が詳細に描き

こまれています。その中には、現在では失われてしまった施設・建物などもあり、吉田初三郎の画業を語る資料としてだけではなく、二セコ町の歴史を語る上でも貴重な資料であるといえます。

本原画は、

今春開催予定の「新収蔵品展」にて公開します。鳥の視線から眺めた景色を体験してみませんか。



「狩太町道立公園二セコ観光鳥瞰図」原画
画寸1,060×420mm. 額寸1,400×600mm.

資料受入報告

平成二十二年度

●高原巳佳氏（福岡県）より

「有島武郎全集 第五巻（新潮社）」
一点

●辻和夫氏（苫小牧市）より

「吉川銀之丞関連写真」三点

平成二十三年度

●加藤光則氏（札幌市）より

「科学原理（写本）」一点

「科学原理（写本）」一点

●菊地昌子氏（二セコ町）より

「有島記念会館外観写真」一点



●武井静夫氏（倶知安町）より

有島武郎関連図書・雑誌資料、
計百六十八点

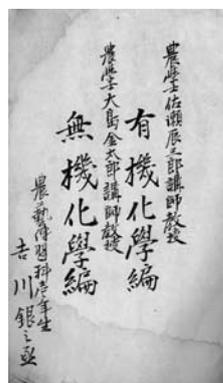
●間瀬ヤエ氏（函館市）より

有島武郎関連図書・雑誌資料、
計二十七点

●川中なほ子氏（東京都）より

「垣内豊子宛有島武郎書簡（額装）」
一点、スケッチ画一点、図書二点、
計四点

両年度ともに、全国の文学館、美術館はじめとする博物館施設から図録、年報など多くの資料の寄贈を受けました。厚くお礼申し上げます。その他、有島武郎関連の書籍を購入・収蔵しています。



これらの資料については、適切な保存処理や資料自体の調査終了後、閲覧・公開に供します（一部、プライバシーに関わる資料に関しては、この限りではありません）。一部資料の詳細は、次号以降の館報「収蔵資料紹介」欄にて紹介する予定です。

学芸活動報告

平成二十三年度から、収蔵資料を未来へ最良の状態に継承していくため、収蔵庫内の環境整備に取り組んでいます。従来、図書資料、逐次刊行物（雑誌資料）、特別資料（書画、愛蔵品、有島農場関連資料など）は分類の区別なく収蔵庫内に排架されており、資料の出納に時間を要していました。そこで資料分類ごとに庫内スペースを割り当て、排架位置が固定化・視覚化することで、出納の迅速化や資料の紛失防止などの効果が期待されます。次年度以降は、上記作業を継続するとともに、収蔵環境整備として、庫内の薫蒸処理や特別資料の写真データベース化なども検討していきたいと考えています。

（学芸員

伊藤大介）



資料整理中の収蔵庫内

書籍紹介

来館者される多くの方から「有島武郎の作品の文章は難しく、読める気がしない」などというお話を伺います。このような、有島作品を読むことに抵抗を感じている方々にお勧めするのが、集英社より発売されている有島武郎原作コミック三冊です。

「小さき者へ・カインの末裔」「或る女」「生れ出づる悩み・一房の葡萄」の三冊で、計五つの作品が収められています。話の筋がイラストで視覚化され、平易な文章で構成されたコミック作品はどの世代にも読み易く、有島作品に苦手意識を持つている方にも、その作品の世界に親しみを感じてもらうのではないでしようか。

ただ、これらのコミック作品は、有島作品が原作として下敷きになっているものであって、有島作品そのものではありません。もしコミック作品を読み、有島作品に少しでも興味がわいてきたら、活字で書かれた有島作品を手にとり読んでみてはいかがでしょう。たとえ難しく読みづらくても、そこから得られる感興は、コミック作品とはまた違ったものがあるはず。このコミックは、有島記念館をはじめ全国の書店にて購入できます。

有島武郎原作コミック

- 谷口敬 やまと虹一漫画
- 「小さき者へ・カインの末裔」
- 井出智香恵漫画
- 「或る女」
- 小川おさむ ながいのりあき漫画
- 「生れ出づる悩み・一房の葡萄」
- 各税込五百五十円 二〇一〇年発行

発行／ホーム社 発売／集英社



「コミック版 或る女」
©井出智香恵

事務室だより

有島記念館に勤務して一年になります。この一年をふり振り返り、特に印象に残る行事は、有島武郎青少年絵画公募展です。この絵画展は十八歳以下を対象に、開催されています。二十三回目を迎えた昨年は、二六〇点の出品がありました。

出品受付や展示の業務に携わり、作品を間近で見られる機会がありました。若者のメッセージ性溢れる作品や思わず作者の内面に想いを馳せてしまうような力作に、大きな驚きを覚えました。今年もまた、多くの作品に出逢える事を楽しみにしています。

有島記念館は、羊蹄山とニセコ連峰の裾野に広がる、水と空気がおいしいニセコ町の東端に在ります。お客様の多くが、道内各地をはじめ、遠く道外などニセコ町外から来館されるため、窓口では観光案内の役割も担っています。館内にはタウンマップやガイド誌を置くなどして細やかな観光情報の提供に努めています。おすすめのレストランや眺望スポットなどをお探しの際には、気軽に声をかけていただきたいと思います。

この時季の記念館周辺は、とても静かです。事務室から見る景色は、また一面真っ白ですが、日差しがキラキラと反射して雪の下で春が走り出しているのを感じ

じます。きっと有島さんも、雄大な羊蹄山を眼の前にして大地が息吹き出すこの季節が好きだったかも知れません。全国の皆さまのご来館をお待ちしております。

(受付・心)



職員動向

平成二十二年度

採用

臨時職員

- 竹石 みな子 平成二十二年四月一日〜平成二十三年三月三十一日
- 大野 理恵 平成二十二年四月一日〜十一月三十日
- 三島 真琴 平成二十二年四月一日〜十月三十一日

平成二十三年年度

退任

館長

飯田 勝 幸 平成二十三年九月三十日退任

異動

尾崎 文哉 平成二十三年四月一日 ニセコ町役場農政課へ

係長

川 平 平成二十三年四月一日

採用

学芸員(嘱託)

伊藤 大介 平成二十三年四月一日〜平成二十四年三月三十一日

臨時職員

福本 泰子 平成二十三年四月一日〜平成二十四年三月三十一日

川 平 平成二十三年四月一日〜平成二十三年十一月三十日

志比川 幸子 平成二十四年一月六日〜三月三十一日

志比川 幸子 平成二十三年四月一日〜平成二十三年十月三十一日

有島記念館勤務職員のみ記載しています。

有島記念館

〒048-1531 北海道虻田郡ニセコ町字有島57番地
TEL 0136-44-3245 FAX 0136-55-8484
e-mail arishima@town.niseko.lg.jp
URL <http://www.town.niseko.lg.jp/arishima/index.htm>
開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)
休館日 毎週月曜日(5月から9月は無休)
年未年始(12月31日~1月5日)
駐車場 自家用車用約15台・大型バス用約5台
常設展観覧料
一般500円、中学生100円
20名以上の団体は400円。小学生以下とニセコ町在住の68歳以上は無料。

交通アクセス

自家用車 札幌、新千歳空港より自家用車で約2時間
JR ニセコ駅より徒歩約30分(約2.5km.)、タクシー5分
バス 道南バス[倶知安駅発]「有島記念館前」下車徒歩5分

